

資

料

用語解説

撃ちて止まむ運動（うちてやまむうんどう）

昭和十八年三月十日の第三十八回陸軍記念日を期したスローガン。「撃ちて止まむ」を決戦の合言葉に、「鬼畜米英撃滅の日」まで一億国民が一丸となって総進軍しようと呼びかけたのである。陸軍省は「撃ちて止まむ」一色の行事を催し、その一つとして大講演会を全国各地で開いた。

営倉（えいそう）

軍紀風紀を乱した兵隊を入れる、軍隊内のブタ箱。衛舎上等兵が監視について、起床時限から消灯時限までは横臥も許されない。各房の入口には営倉入りの者の隊号・等級・氏名・罰目・留置などを記した札が掲げられている。軽い者は、中隊長の許可によって、用紙と一冊の書籍を与えられることもあるが、重い者は

重営倉に入れられ、飯と塩と水だけの食事で、毛布も与えられない。

お米通帳（おこめつうちょう）

お米の配給を受けるための通帳。米の割当配給は、昭和十六年四月一日から、東京・大阪・神戸・京都・名古屋・横浜の六大都市で実施された。割当量は世帯員の年齢や職業に応じて、一日何グラムというふうに割り当てられ、例えば十一歳から六十歳までの者は一日三百三十グラム（二合三勺強）であった。世間では「お米の通帳制」といったりした。

学徒出陣（がくとしゅつじん）

明治憲法のもとでは男子はすべて満二十歳になると徴兵検査を受け、合格者は一定期間の軍務に服することが義務付けられていた。しかし文部省が認める大学・高等専門学校生徒に限って、満二六歳まで延期することができるとされていた。昭和十六年、戦局の緊迫

は兵員の増大を要求したため、東条内閣は「徴兵猶予」を取り消した。この結果、全国の法文経の学生十三万人が出陣していった。

関東軍（かんとうぐん）

中国山海関以東一帯、つまり奉天、吉林、黒竜江省の三省を関東と呼んでいた。明治三十一年以来、この関東州をロシアが租借していたが、日露戦争後日本が租借権を譲り受け、そこに関東総督府をおいて、その指揮下に約一万の兵力を駐留させた。その後大正八年に関東軍司令部が新設され、統帥権の独立を保証された。関特演では七十万人が集結した。

関特演（かんとくえん）

関東軍特別大演習の略である。昭和十六年六月二二日に開始された独ソ戦の推移をみて、対ソ戦を断行するための準備として、昭和十六年七月二日、大本営陸軍部は関東軍特別大演習の名で、大動員を行うことを

認めた。満州に七十万の兵力と六百機の飛行機、その他膨大な武器・資材を集結した。また、ソ連軍を満州国境に縛りつけて、ソ連の対独戦争遂行の妨害をも意図していたのである。

強制連行（きようせいれんこう）

戦争中、働ける日本人はすべて軍需生産にたずさわったが、それでも不足する労働力を埋めるために、朝鮮人が強制的に徴用され日本に連行され、日本人以上に苛酷な肉体労働に従事させられた。昭和十四年に始まり、敗戦までに七二万四千人余りが連行された。

玉砕（ぎよくさい）

名誉や忠義を重んじて、玉が美しく砕け散るように、いさぎよく死ぬことを意味するが、太平洋戦争中の戦況の悪化にともなって、後方からの補給を絶たれた小島で、日本軍が全員が戦死したとき使われた。昭和十八年五月二九日のアッツ島に始まり、タラワ、サイパ

ン、硫黄島など玉砕があいついだ。

空襲 (くうしゅう)

第一次世界大戦に軍用機が登場して以来、航空機は急速に発達した。第二次大戦においては、戦いは戦場だけでなく、敵国の生産施設や交通遮断の目的で都市部などに爆撃が行われた。日本の場合、サイパン陥落後終戦までに、延べ一万七千機が来襲し主要都市十三か所が空襲を受けた。

月月火水木金金 (げつげつかすいもくきんきん)

土曜、日曜の休みのないこと。海軍は日露戦争のとき、バルチック艦隊の極東来航に備えて猛訓練を実施した。その後、ワシントン会議の軍縮条約締結やロンドンの海軍軍縮条約調印により、主力艦保有量の劣勢を技術力でカバーしようと訓練にさらに拍車がかかった。こういう状況のもとで月月火水木金金という言葉が生まれた。また、昭和十五年十一月に同名のレコー

ドが発売され、大ヒットした。

衛兵所 (えいへいしよ)

衛兵は、連隊を守備する重い責任がある。十二日に一回くらの割で、下士官を司令とする一個分隊十数名が任務につき、表門・裏門・火薬庫にいたるまで警戒にあたる。衛兵所には司令以下非番の数名が腰をかけて眼をひからせ、出入りする者を監視する。外出入の兵隊は、衛兵所の前を通る時、服装を改め、歩調を正し、厳正な敬礼をする。特に初年兵などはびくびくしながらこの前を通った。

銃後 (じゅうご)

直接戦争に加わらない一般国民も、戦場の直ぐ後方にいるということで、大政翼賛会の指導の下で町内会や隣組、国防婦人会、翼賛壮年会などが組織された。

酒保 (しゅほ)

軍隊の営内にある物品販売所である。あんばん・しろこ・うどん・煙草・酒類が売られている。兵営生活には、欠かせない憩いの場所である。入営当初は余り顔も出せないが、古参兵になると入りびたりの者も出てくる。特に酒好きの兵隊には必要などころで、古いラッパ付きの蓄音機が地方の歌を流していたりする。

手榴弾 (しゅりゅうだん)

日露戦争のとき旅順要塞攻防戦で、苦戦を強いられた日本軍がせっぱ詰まって空き缶などに黒色火薬をつめ、導火線に点火して敵に投げつけたのが始まりといわれる。その後大正十年に第一次世界大戦のとき、ドイツがこれを兵器として完成させた。

焼夷弾 (しょういだん)

燃焼性の物質と炸薬を入れたもので、絨毯爆弾に使

用された。エレクトロン焼夷弾、黄燐焼夷弾、油脂焼夷弾の三種類があり、重さは二キロ、五キロ、十キロなどがあるが、大きいものになると百キロというものもある。

召集令状 (しょうしゅうれいじょう)

在郷軍人を召集する命令書。使われたはがきが赤色であったので赤紙とも呼ばれた。実際には陸軍の充員召集、臨時召集、国民兵召集は淡紅色、海軍の充員召集には紅色が使われた。これに対して、国民徴用令による軍需工場などへの召集令状は白色が使われたので白紙と呼ばれた。

新型爆弾 (しんがたばくだん)

昭和二十年八月六日に広島に投下された原子爆弾を大本営はこう発表した。市民数十万人が死亡し街は荒野と化した。大本営は相当の被害としか発表しなかった。また長崎の場合も同様であった。

絶対国防圏（ぜったいこくぼうけん）

昭和十八年日本軍はソロモンやニューギニアなどの主要拠点を撤退しなければならなかった。このような状況で開かれた九月三十日の午前会議で決定された、今後絶対確保すべき要域をいう。具体的には、千島、小笠原、内南洋（中、西部）及び西部ニューギニア、スンダ、ビルマを含む圏域。

零戦（ぜろせん）

陸の隼、海の零戦といわれる海軍の零式艦上戦闘機の略称。昭和十二年に計画要求書が提出され、昭和十五年に正式採用となった。皇紀二六〇〇年の下二桁をとって零式艦上戦闘機とよばれた。大戦当初は無敵を誇った。

千人針（せんになはり）

武運長久と安泰を祈って、白布に赤糸で、千人の女

大本営（だいほんえい）

戦時の時に設けられる軍事に関する最高の統帥機関。大本営が設置されたのは、日清・日露の両戦争と昭和十二年以降敗戦までの三回だけであるが、陸軍参謀本部と海軍軍令部との意見を天皇の裁断によって調整する機能をもっていた。昭和十二年に設置されたときには、大本営政府連絡会議が設けられ、統帥と政務とを統一した最高軍事指導の場となった。大本営政府連絡会議・最高戦争指導会議は重要な国策を決定する場合には御前会議という形式をとった。

代用品（だいようひん）

戦争の長期化に伴い物資が不足し、日用品はことごとく代用品にかえられた。特に鉄類は供出され、鉄製の鍋や釜などは土鍋や土釜にかわった。また、竹制スプーン、鮫皮靴、木製バケツなども登場し、水筒、アイロン、郵便ポスト、手榴弾などは焼物にかえられた。

性が一針ずつ、千個の縫玉を縫って、出征兵士に贈ったものである。日清・日露戦争のころ、「虎は千里を走って千里をもどる」といういわれから始まったとされている。虎のような猛き力を願って、寅年生まれの女性、特に「五黄の寅」は運氣が強いとされており、この年の人には年の数ほど縫って貰うということもなされた。全ての兵士はこれを贈られて腹に巻いて出征していった。

疎開（そかい）

航空機の発達した近代戦争では、銃後でも空襲を受ける公算が大きい。このため都市など、空襲の被害を少なくするため、人口や建物を分散すること。施設の疎開は工場が優先され、建物の疎開は密集地の建物を取り壊されて空き地を設けた。また、空襲の増加とともに学童の集団疎開が行われた。

竹槍部隊（たけやりぶたい）

戦争末期、鉄の不足から、日本各地にあり安価な竹を削った槍が代用品に使われた。銃後の女性も国民義勇隊を結成し、モンペにはち巻姿でこの槍をもち、「一億火の玉」精神で訓練に励み、アメリカ軍の本土上陸に備えた。

敵性語（てきせいご）

戦争の長期化より「軽薄な舶来思想の遺物として頑迷にこびりついている外来語を一掃し日本語に返れ」と敵性外来語廃止の気運が高まり、煙草の銘柄や野球の用語などが次々日本語にかえられた。

転進（てんしん）

昭和十七年後半頃から、アメリカ軍の反攻により日本軍は各地で撤退を余儀なくされた。それを政府は撤退とは発表せずに、「当初の目的が達成されたので別の

料 資
場所へ転進した」という発表をした。特に昭和十八年のガダルカナル島やキスカ島の転進が有名である。

燈火管制（とうかかんせい）

夜間空襲の際、敵の爆撃機に目標物を与えないよう電灯を消すこと。一般家庭でも、電灯に暗幕を被せたり、窓にカーテンを張ったりして光が外へもれないようにした。

特攻隊（とっこうたい）

特別攻撃隊の略称で、戦闘機「零戦」に二五〇キロの爆弾を積んで、敵空母に体当たりする攻撃部隊。第一航空隊司令長官大西瀧治郎中將によって、編成された神風特攻隊は、アメリカ軍から「カミカゼ」と恐れられる名となった。特攻隊員は志願した者に限定されたが、強制的な自殺攻撃といえる戦術であった。

隣組（となりぐみ）

その地域の消防、燈火管制、警報伝達、防護の任にあたることを目的として、昭和十四年八月につくられた十戸内外を単位とする国民総動員体制の末端組織である。また、生活必需品は隣組を単位として配給された。

配給制度（はいきゅうせいど）

戦争の長期化による物資の不足で、物を割当てに応じて配る制度。石炭・石油・鉄鋼・電力が配給統制となつたのははじめ、昭和十五年には衣料品をはじめ、米穀・調味料・マッチ・石けん・たばこなど身の回り品までが切符制から配給制へと切り換えられた。米の配給は、次第に押麦・高粱・とうもろこし・馬鈴薯・うどん・乾パンなどの総合配給となり、それによりに闇販売を生むことになり、必然的に「買い出し」生活へと国民を走らせた。

罰直（ばっちよく）

軍隊内での多くの私的制裁のこと。その種類もバツターと呼ばれるものや、ビンタ、ウグイスのつな渡り、ミイミイゼミ、ささげ銃、重装備をつけたの駆け足などいろいろあり、上官の気分次第で余興のように罰直が行われた。そのため部下は罰直をまぬがれるために上官のものを奪い合つて洗濯し、みがきあげた。日常のそういう振る舞いが、罰直をまぬがれるか否かにもかかっていたのである。そこから「軍隊は要領である」という言葉を生みだした。事実それが一面の真実をも表していた。

B 29（ビーにじゅうく）

アメリカ第五八爆撃航空隊の主力爆撃機、全長三〇・一メートル、全幅四三・〇五メートル、自重三二・三七トンもある巨大な爆撃機で、ボーイングB 29スーパー・フォレス（超空の要塞）と呼ばれた四発機。最大九・〇七トンの爆弾が搭載でき、最高速度五八一キロ/時

不敬罪（ふけいざい）

旧刑法に定められていた罪で、天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子、皇太孫、神宮、皇陵にたいして敬意を失う、つまり不敬行為をすることによって問われる罪。

兵役検査（へいえきけんさ）

満二十歳になった者を現役に適する者、国民兵役に適するが現役に適さない者、兵役に適さない者に区別する身体検査。甲乙丙丁の種類があり、現役に適する者は甲種合格といって兵役についた。

奉公袋（ほうこうぶくろ）

表に「奉公袋」と墨書きした布の袋で、中に軍隊手牒をはじめ、勲章や記章などを入れておく。他には適任証書とか招集及び点呼令状、その他貯金通帳なども入れていた。兵隊にとって最も大切なものを入れておくところが奉公袋であったといえる。

昭和十五年に暴利行為取締規則を改正し、公定価格には公の表示を義務づけた。関係主務大臣が閣令をもってさだめた価格、これが公定価格でマル公とよばれるようになった。

満鉄（まんてつ）

南満州鉄道株式会社の略称である。日露戦争の勝利によって関東州の租借権とともにロシアから物資的賠償として獲得した東清鉄道南部線及びその支線と付属地。これに政府が一億円を出資し明治三十九年に設立された半官半民の国策会社。また、鉄道路線周辺に一般行政権も認められていた。

マル公（まるこう）

日中戦争による物資の不足が深刻化し物価が高騰したため、国際水準まで物価を引き下げようと、政府は

年 表（昭和元年～二十一年）

年	月日	政治・世界	月日	社会・世相	月日	田辺町・京都府
昭和元年	12・25	大正天皇死去 昭和と改元			12・25	山城地方大雪
昭和2年	2・7	大正天皇大葬	5・28	第一回全日本オープンゴルフ選手権大会開催	3・7	丹後大地震（京都府死者三九五九人）
	3・14	東京渡辺銀行が破綻。金融恐慌の端緒となる	7・24	芥川龍之介服毒自殺	10・17	田辺町畜牛組合設立
	5・28	政府、居留民保護を理由に中国山東省に出兵（第一次山東出兵）	8・13	第十三回全国中等学校野球大会を初めて実況中継	12・20	「田辺町報」創刊
	6・20	日・英・米の三か国海軍軍縮会議、ジュネーブで開催。失敗に終わる	12・30	日本初の地下鉄開通（浅草―上野間約二・二km）		
昭和3年	2・20	初の普通選挙による総選挙	1・12	大相撲の実況中継開始	3・10	三山木小学校、御大典記念に校庭拡張
	3・15	政府、共産党関係者一斉検挙。徳田球一ら起訴（3・15事件）	3・24	御大礼記念博覧会でマネキンガールを使用する	4・24	山城地方水害

昭和 4 年										
4・19	5・3	6・4	6・29	8・27	11・10	3・5	4・16	7・2	10・24	
政府、国民革命軍の北伐再開に対し山東出兵を決定（第二次山東出兵）	山東派遣軍、山東省済南で国民政府軍と武力衝突（済南事件）	閩東軍参謀河本大佐ら、奉天に引揚げ途中の張作霖を爆殺	政府、治安維持法を改正。死刑・無期懲役を追加	パリで不戦条約調印	天皇、京都御所で即位礼	代議士山本宣治（旧労働農民党）、黒田保久二に刺殺される	政府、共産党員を一斉検挙。市川正一ら起訴（4・16事件）	浜口内閣、緊縮財政・金解禁・非募債など十大政綱を掲げる	ニューヨーク株式市場大暴落（暗黒の木曜日）。世界恐慌始まる	
7・28	11・1	11・5				2・23	3・1	4・1	4・27	
第九回オリリンピック開催。日本に初の金メダル	ラジオ体操の放送開始	東京・大阪朝日新聞社で流動式電光ニュースを開始				説教強盗妻木松吉、逮捕される	山野千枝子、東京マネキン倶楽部を結成	初の全国麻雀選手権大会開催	国産初のサントリ・ウイスキー発売	日本初のロータリー・クラブ大会が京都で開催される
5・20	6・25	7・25	8・15	11・3	11・15	4・12	5・1	7・10	12・14	
奈良電鉄田辺車庫できる	府下全域豪雨	奈良電鉄、木津川橋梁できる	山城地方大雨	奈良電鉄桃山く西大寺間開業	奈良電鉄、京都まで開通	綴喜郡町村会、城南高等女学校設置促進について協議する	国道二四号線京都く奈良間開通	奈良電木津川駅設置。木津川水泳場開場	京都区裁判所田辺出張所（登記所）、田辺小字西垣内五〇―一に移転	

昭和 5 年										
1・11	2・26	4・22	5・30	10・27	11・14	3・20	6・27	9・18	10・17	
金輸出解禁実施	ロンドン海軍軍縮会議開催	政府、共産党関係者を一斉検挙	ロンドン海軍軍縮条約調印	中国の間島で、朝鮮人、反日武装蜂起（間島事件）	台湾の高山族、台中州霧社で抗日暴動（霧社事件）	浜口首相、東京駅で狙撃され重傷	桜会幹部と大川周明ら、軍事クーデターを計画。未遂に終わる（3月事件）	参謀本部員中村大尉、北満で中国軍に殺害され、満州事変の引き金となる（中村大尉事件）	閩東軍の板垣征四郎ら、奉天郊外柳条湖の満鉄の線路を爆破。これを中国側の行為とし、総攻撃を開始する（満州事変）	青年将校と大川周明ら、軍部内閣
3・24	11・16					1	2・11	8・1	9・1	
							のらくろ二等卒、少年倶楽部に連載開始	映画「モロッコ」（初のスーパードンポーズ版）封切り	映画「マダムと女房」（日本最初の本格的トーキー）封切り	上越線の清水トンネルが開通（九七〇二m、当時世界最長）
4・13	6・13	7・31					4・1	4・25		
府道枚方田辺線開通	西念寺保育園（田辺）開園	虚空蔵谷川、豪雨により決壊					田辺共栄組合、京都府農会表彰	伏見市ほか二〇町村を京都市に編入	一休寺で一休四五〇年忌執行	

昭和10年			昭和9年					
3・16	2・18	12・3	11・20	10・1	9・18	8・2	3・1	10・14
独、ベルサイユ条約軍備制限条項	貴族院本会議で、美濃部達吉の天皇機関説問題化	単独破棄通告を決定	政府、ワシントン海軍軍縮条約の（士官学校事件）	村中孝次・磯部浅一ら皇道派青年将校、クーデター計画容疑で検挙	設を主張	ソ連、国際連盟に加盟	陸軍省、陸軍パンフレットを発行。戦争準備のための国防国家建設を主張	のクーデター計画発覚（神兵隊事件）
5・1	3・8		12・26	11・2	9・21	4・21	1・1	8月
戦前最後のメーデー	忠犬ハチ公死ぬ		職業野球団大日本東京野球倶楽部創立（東京巨人の前身）	グ選抜野球チーム来日	ベープ・ルースらアメリカ大リーグ選抜野球チーム来日	東京宝塚劇場が開場	忠犬ハチ公の銅像、渋谷駅前に建立	五回をたたかい――〇で明石を下す
	6・29					11・3	10・31	1・8
反余・畑一九五反	豪雨による水害（田辺・河原・薪区）、耕地田畑の浸水田八五町八反					大住役場・小学校増改築	国鉄京都駅で、列車見送人の跨線橋転落事故発生。圧死七十七人	木津川グライダー場閉鎖

昭和8年					昭和7年				
7・11	5・26	3・27	1・30	1・1	12・13	10・3	7・31	5・15	3・1
天野辰夫らと大日本生産党員と	京都大学教授滝川幸辰、文官分限令により休職処分（滝川事件）	日本、国際連盟を脱退	ヒトラー、独首相に就任	日本軍、山海関で中国軍と衝突（山海関事件）	大日本国防婦人会発足	武装移民団の第一陣満州に渡る	ナチス、独第一党となる	海軍古賀中尉ら、犬養首相を射殺（5・15事件）	満州国建国を宣言
8・19	2・20			1・9			12・16	5・14	2・22
中等野球準決勝で中京商、延長二	作家の小林多喜二、特高に逮捕され拷問により死去	所となる	大島三原山で実践女子学校の生徒が投身自殺する。以後自殺の名所となる	大島三原山で実践女子学校の生徒が投身自殺する。以後自殺の名所となる	化	裾の乱れを気にして墜落死したため、以後スロースの着用が一般化	東京日本橋の白木屋で火災。和服の女店員がロープで非難する際	米の喜劇王チャップリン来日	第一回日本ダービー開催
	11・13	8・7	6・18	6・17		12・1	7・31	7・12	7・8
	大礼記念京都美術館完成	綴喜防犯協会結成	巨椋池干拓工事起工式	国鉄片町線四條畷～木津間にガソリン・カー運行		国鉄片町線片町～四條畷間電化完成	山城地方豪雨	田辺小学校校舎・講堂増改築、運動場拡張	山城地方豪雨
									6・24
									京都放送局開局
									4・16
									府道枚方田辺線拡張

昭和 16 年									
3・30	6・14	7・26	8・15	9・23	9・27	10・12	4・13	4・16	7・2
汪兆銘、南京に中華民国政府を樹立	独軍、パリに無血入城	政府、基本国策要綱を決定。大東亜新秩序建設と国防国家体制の確立を明記	民政党解党（全政党建党）	日本軍、北部仏印へ武力進駐開始	日独伊三国同盟締結	大政翼賛会結成	日ソ中立条約調印	政府、日米諒解案を交渉の基礎として日米交渉の正式開始を決定	独軍、ソ連攻撃開始（独ソ戦始まる）
8・1	9・11	10・31	10・31	11・2	11・3		1・8	3・1	5・8
6・15東京・大阪でも実施	東京府、食堂・料理屋などでの米食使用を禁止	内務省、町内会・部落会などの設置を通達（隣組の組織化）	外国名の煙草の改名を発表	東京のダンスホール閉鎖	大日本帝国国民服令公布	厚生省、一〇人以上の子をもつ優良多子家庭を表彰	陸相東条英機、戦陣訓を示達。捕虜となるよりは自ら死を選ぶことを正当化	国民学校令公布（小学校から国民学校に改名される）	6大都市で、米穀配給通帳制・外食券制が実施される
6・18	7・26	9・2	11・26				4・1	4・19	6月
豪雨で淀川大增水	大住村教育後援会結成	（一四日）宇治・乙訓・久世・綴喜・相楽五郡の防空訓練実施	関西電気株式会社、京都電灯株式会社となる				町村立の小学校名を国民学校に改称。	大住村青少年団結式	奈良電バス、新田辺〜国鉄玉水間運行開始
なる								山城地方水害	京阪バス、八幡〜田辺間運行開始
								台風により木津川出水	巨椋池干拓工事完工

昭和 14 年									
3・13	4・1	7・11	10・27	5・11	5・22	8・23	9・1	12・22	2・2
（第一次近衛声明）	独、オーストリアを併合	国家総動員法公布（五・一五施行）	ソ連沿海州国境の張鼓峰で、日ソ両軍武力衝突（張鼓峰事件）	日本軍、武漢三鎮を占領	満州と外蒙との国境付近のノモンハンで、外蒙軍と満州国軍とが武力衝突	独伊軍事同盟調印	独ソ不可侵条約調印	独、ポーランドに進攻開始（第二次世界大戦）	駐日米大使グレー、日米通商航海条約などの締結を拒否
4・10	6・11	7・15	8・16	12・26	1・15	2・16	4・12	6・16	12・26
灯火管制規則が実施される。	エノケン一座、日劇に初出演	東京オリンピック中止が決定	ヒトラー・ユーゲントが来日	北海道帝大の中谷宇吉郎ら、雪の人工結晶に成功	六九連勝の横綱双葉山、安芸ノ海に敗れる	不要鉄製品の回収を開始	米穀配給統制法公布	国民精神総動員委員会、生活刷新案を決定	朝鮮総督府、朝鮮人の氏名を日本式に改めるように指示（創氏改名）
4・29	7・4	7・29	8・1	8・22		2・25			
大住村自治制発布五〇周年記念式典	（一六日）山城・丹波大水害	府、全国に先駆け警防団結成	（一二日）山城地方大豪雨	綴喜郡園芸出荷組合設立		大住の大字松井小字川田地内に陸軍機墜落、宝蔵寺中将以下六名死亡			大住郵便取扱所、無集配郵便局と

昭和20年									
10・24	10・25	11・24		2・4	2・16	3・9	3・14	3・17	7・17
レイテ沖海戦始まる。連合艦隊は事実上壊滅状態となる	海軍神風特攻隊、レイテ沖で米艦船に体当たり	マリアナ基地のB29約七〇機、東京を初空襲。以後、日本本土各地への爆撃が本格化		ルーズベルト・チャーチル・スターリン、ヤルタ会談開催	米機動部隊、硫黄島上陸作戦開始。	三三四機のB29、東京を空襲（東京大空襲）	硫黄島の日本軍守備隊玉砕	大阪大空襲	米軍、沖縄本島に上陸開始
4・20	6・23	8・4	8・28	11・1	3・6	3・18	6・18	7・11	8・20
東京都内の幼稚園、無期限休園となる	北海道洞爺湖畔で大噴火、新火山が生まれる（昭和火山）。	学童集団疎開第一陣が上野を出発	各官庁、第一・第三日曜日出勤となる	煙草の隣組配給制実施	国民動労動員令公布。労働力の根こそぎ動員	政府、決戦教育措置要綱で、国民学校初等科以外の授業を一年間停止	沖縄戦での集団自決が相次ぐ	主食の配給が一割減の二合一勺となる	灯火管制が解除される
6・5	2・24	7・30					7・月	9・17	9・月
午前8時40分ころ、B29爆撃機、木津川へ墜落	宇治市大久保の日本国際航空に空襲。	奈良電沿線など府下各地で空襲（三山木駅踏切警手一名殉職、田辺車庫内車両二両被弾）	奈良電、木津川水泳場休場	西日本に枕崎台風	アメリカ軍、京都・奈良に進駐（19日）府下全域に水害	戦後初の府会開かれる			

昭和19年									
8・25	7・18	6・19	6・6	6・4	2・21	1・7		12・24	11・28
連合軍、パリに入城	東条内閣総辞職	マリアナ沖海戦始まる	連合軍、ノルマンジー上陸	米・英軍、ローマ入城	兼任。軍政両面で独裁体制確立	大本営、インパール作戦を認可	東条首相（陸相兼任）、参謀総長を兼任。軍政両面で独裁体制確立	徴兵適齢臨時特例公布。適齢を一年引下げ一九歳とする	石、カイロ会談開催
3・6		3・4	2・10	1・26				12・10	10・21
全国の新聞、夕刊を廃止	で整理する	宝塚歌劇団、この日かぎり休演のためファンが殺到、警官が抜刀で整理する	青山杉作・東野英治郎・小沢栄太郎ら俳優座を結成	内務省、東京・名古屋に疎開命令	青山杉作・東野英治郎・小沢栄太郎ら俳優座を結成	出陣学徒の壮行大会、神宮外苑競技場で挙行される	文部省、学童の縁故疎開を促進		
11・25	10・30	10・7	5・月	1・月	1・20				
奈良電バス、新田辺→玉水駅前バス運行開始	（18日）降雨のため木津川増水	奈良電バス、三山木→打田間にバス運行開始	大干ばつ	三山木村農業会設立	町道尊延寺大住線着工				

昭和21年					
7・26	米・英・中の、ポツダム宣言発表	9・20	文部省、中等学校以下の教科書の戦時教材の削除を通達。墨で教科書を塗りつぶす	12・21	京阪丹波橋駅を奈良電鉄と共用駅とする
8・6	広島に原爆投下				
8・8	ソ連、日本に宣戦布告			12・31	飯岡対岸の木津川原で火薬焼却中に爆発する
8・9	長崎に原爆投下	10・9	G H Q、東京の五大新聞の事前検閲開始		
8・15	日本、無条件降伏し、第二次世界大戦終わる	10・11	戦後企画映画第一作「そよ風」封切り。主題歌の「りんごの歌」が大流行する		
9・2	米艦ミズーリ号艦上で降伏文書に調印		治安維持法など廃止		
9・27	天皇、マッカーサーを訪問	10・13			
10・2	G H Q(連合国総司令部)、執務開始				
1・1	天皇、神格化を否定する詔書(人間宣言)	1・19	ラジオのど自慢素人音楽会放送開始	5・1	山城地方水害
4・10	戦後初の総選挙			7・1	日赤第一病院田辺診療所できる奈良電。
5・3	極東国際軍事裁判開廷(東京裁判)	2・17	新円発行のため、預貯金封鎖の金融緊急措置令公布	10・1	木津川臨時駅廃止
11・3	日本国憲法公布	5・1	十一年ぶりのメーデー開催		

編集後記

住民のみなさんから原稿の募集を始めてから約一年。やっと、発行にこぎつけることができました。募集開始当初は、応募していただく方も少なく、「これでホンマに文集できるやろか」「PRの方法が良くなかったのかな」とか、いろいろ思い悩みましたが、町政協力員の方々や多くのみなさんのご協力で、次第に原稿も集まりました。

この文集の編集を担当した田辺町平和都市推進協議会事務局の職員は、多くは戦争を経験したこのない世代で、戦争と関わりがあったみなさんのそれぞれの人生を、深い感慨をもって読ませていただきました。また「酒保」(用語解説編参照)という言葉を知ったのも、この編集の過程でした。苦しく長い道のりを文章にしていたくのは、大変つらい作業だったと思います。その文章に込められている二度と繰り返してはならない戦争、平和への熱い願いを受けとめ、そして次代へ語り継ぐ橋渡しをするのが私たちの責務だと痛感しました。

戦争体験文や写真を提供していただいたみなさん、ありがとうございました。

参 考 資 料

- 「昭和ってなんだ大百科」(昭和時代資料研究会) K K ロングセラーズ
「昭和史 その遺産と負債」(江藤淳) 朝日出版
「昭和史年表」(神田文人) 小学館
「戦争・事変 全戦争・クーデター・事変総覧」教育社
「現代史カレンダー 戦争と平和の366日」(吉田裕・伊藤悟ほか) 東研出版
「昭和世相史」(原田勝正) 小学館
「太平洋戦争の歴史 上・下」(黒羽清隆) 講談社
「暮らしの中の太平洋戦争」(山中恒) 岩波新書
「目で見える昭和の60年 上巻」読売新聞社
「昭和日本史」暁教育図書出版
「日本の侵略…中国・朝鮮」(黒羽清隆・梶村秀樹) ほるぷ出版

語り継ぐ戦争体験

—— 平和への祈りをこめて ——

発行 平成四年八月一日

編集 京都府綴喜郡田辺町平和都市推進協議会

戦争体験文集刊行委員会

発行 京都府綴喜郡田辺町平和都市推進協議会

〒六一〇—〇三 京都府綴喜郡田辺町大字

田辺小字田辺八〇番地

電話 〇七七四六—三—一一二二

印刷

サンケイ総合印刷株式会社